

# 広島郵便貯金会館

## 新館建設に揺れる

# 存続か 廃館か

メルパルクの愛称で親しまれている広島市中区白島北町の広島郵便貯金会館が、中区基町の新会館建設に伴い廃館か存続かで揺れている。新会館は昨年七月に着工されたが、郵政省は「二都市二館不可」を原則としており、廃館される可能性が強い。これに対し、音楽ファンの間では「コンサート会場を残して」との声が強く、署名運動も始まっている。



新館建設で存続が危ぶまれている広島郵便貯金会館

用したアーティストからは「音響効果が良く、使いやすい」と高い評価を与えられた。全国には東京、大阪、名古屋など二十五カ所に会館があるが、同ホールは最大規模。年間三百日近く使われ、西日本でも有数の音楽施設として機能している。

しかし結婚式場、宴会場などは狭く、老朽化が目立つ。結婚式もピーク時の年間約六百組から、最近では約二百組に減少している。

同館の砂田久登総務支配人は「ホールの利用者は年間約四十五万人にのぼるが、それ以外は約十万人。会館全体の空間に占めるホールの割合は七割だが、ホールからの売り上げは全体の二割。効率性から見ると弱い面もある」と舞台裏の苦勞に触れる。

このため音楽ファンから現在の会館の存続を求める声が生じ、四月末から、コンサートなど主催する音楽関係者が中心になって署名活動を始めた。コンサートを訪れた学生やOLらが署名に応じ、署名は半月間で約三千人にのぼっている。

### ホールない新会館

署名活動の世話役を務める中区中町、キャンディー・プロモーション社長室田正則さん(三十三)は「最近、広島でホールが増えているが、現在の郵便貯金会館ホールは規模や音響効果からみて芸能イベントに最適。新会館にホールが造られないのならば、現在の会館を残してほしい」と訴えている。

# 1市2館不可が原則

## 郵政省

もともと「舞台裏の苦勞に触れる。館を残してほしい」と訴えている。

# 「残して」と署名運動

## 音楽ファン

新会館は地上十二階、地下二階、延べ二万七千二百平方メートル。昨年七月に着工された。来秋に完成する予定。宿泊施設、結婚式場、会

同会館は、昭和四十七年九月に完成。地上四階、地下一階、音楽ファンを喜ばせるホール、会議室兼宴会場、レストランなどがある。

### 木造の本格ホール

内部は天井を兼ねてほとんど木材製。現在

メイン設備は座席数千七百九十四の大ホール。当時、市内には本格的な音楽演奏の

在の建築基準法では火災予防のため、モルタル壁の新設ホールに比べ、一味も二味も違う音響効果。果が楽しめる。

舞台も総ヒノキ造り。L・P・千二百平方メートル。昨年七月に着工された。来秋に完成する予定。宿泊施設、結婚式場、会